

比較文化論ドイツ語（比較文化論）

1 年次 後学期	授業科目責任者：渡邊 徳明（教養学 ドイツ語）
----------	-------------------------

学習の目標 (GIO)	<p>学習の目標 (GIO): ドイツと日本の文学作品を輪読する。その中で、西洋の作品と日本の作品の質的な相違は何であろうか、ということについて考えを深める。同時に、読解・鑑賞を通じて、人間の内面に想いを致す資質を養う。</p> <p>[本年度のテーマ] 結ばれなかった男女の愛と回想</p> <p>[テーマの解説] 前期の「ドイツ文学」講義では、死に至る愛を扱った。ところが、(幸いなことに)実世界での恋愛の多くは死に至らずに終結する。多くは結婚をもって終結し夫婦の関係へと引き継がれてゆくが、同時にまた多くの男女が結局は結ばれることなく別れてゆく。そういった結ばれずに終わった恋愛関係は、のちの人生においては若き日のエピソードの一つとして本人の胸のうちに封印され、言及されることは許されない。おそらく結婚をした多くの男女が、実はそのような「エピソード」を密かに持っていることであろう。</p> <p>そのように秘められた若き日の恋は、追憶を誘うものであることもまた、多くの人が経験的に知っている。ドイツにおいても、日本においても、このような結婚に至らなかった若き日の恋が文学の題材となることは少なくない。一般に観念性が強いとされるドイツ文学においては、そのような追憶は純化された切ない想いとして、ときに静かに、ときに強く、謳われる。そのような作品の例として授業ではゲーテの『若きウェルテルの悩み』(およびマンの『ワイマールのロッセ』)、シュトルムの『みずうみ』を扱う。</p> <p>学期の後半には、日本文学の中でこのようなジャンルの作品として夏目漱石の『三四郎』を扱う。好きなものに結ばれることのない若い男女のもどかしさを描いた作品として、日本文学史上の古典とも言えるだろう。</p>
授業担当者	渡邊徳明(教養学 ドイツ語)
教科書	特に指定しない。
参考図書	適宜、授業内で指示する。
実習器材	特になし。
評価方法 (EV)	定期試験は実施しません。授業の参加状況などによる平常点(60%)、最終レポート(40%)にて評価します。レポートは授業で扱った作品、もしくは担当教員が推薦する授業関連の作品を一つ選択して、それを読んで内容要約と感想を書いてもらう、というものを求めます。
学生へのメッセージ オフィスアワー	少人数の輪読形式の授業になることでしょう。出席を重視し、積極的に作品を鑑賞する姿勢が求められます。当然ながら居眠りや「内職」は減点の対象となります。文学や歴史についての予備知識は特に求めません。この授業を通じて、一冊で良いですから気に入った文学作品を見つけてもらえればと思います。

日程	授業項目	授業内容・行動目標・学習方略(SBOs)(LS)・準備学習(予習)内容・コアカリキュラム・国家試験出題基準	授業担当者
10月1日(火)	『若きウェルテルの悩み』(岩波版、32-37頁、52-59頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] ウェルテルとロッセの出会い：芸術的感性の豊かなウェルテルは滞在先の地で良家の娘であるロッセと出会い、恋に落ちるが、彼女にはアルベルトという婚約者がいることを知る。</p>	渡邊徳明
10月8日(火)	『若きウェルテルの悩み』(岩波版、92-101頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] ウェルテルの挫折：宮廷に仕えるウェルテルは、固陋な門閥主義のはびこる宮廷で、平民の身分ゆえに思うように才能を活かせず苦悩し、やがて宮廷を辞去する。</p>	同上
10月15日(火)	『若きウェルテルの悩み』(岩波版、130-140頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] アルベルトとウェルテルの価値観の違い：社会における法秩序を重視し、女性への愛ゆえに人殺しをした男のことを許さないアルベルトに対し、ウェルテルは内面の美しさ・動機の純粋さが免責理由となりうると主張するが、退けられる。この意見の相違はアルベルトとウェルテルの性格および価値観の相違でもあって、ウェルテルは更に挫折感を深めてゆく。</p>	同上
10月22日(火)	『若きウェルテルの悩み』(岩波版、164-175頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] ロッセとウェルテルの最後の夜：ウェルテルとロッセは詩の朗読ののちに感極まり、ついにウェルテルはロッセの唇を奪う。ロッセは、もうこれ以上会うことはできないと伝える。ウェルテルは死を決意する。</p>	同上

日程	授業項目	授業内容・行動目標・学習方略(SBOs)(LS)・準備学習(予習)内容・コアカリキュラム・国家試験出題基準	授業担当者
10月29日(火)	『若きウェルテルの悩み』(岩波版、176-180頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] ウェルテルの最期: ウェルテルのロッテに対する愛は、あたかも神への信仰にも似た感情として描写される。彼の激情ははげ口を求めているのであり、それが偶然にもロッテであったのだ、と思えるほどに、彼は生き急ぎ、死に急ぐ。死後にロッテが自分を悼んでくれることを夢想して、自ら命を絶つ。</p>	同上
11月5日(火)	『ワイマールのロッテ 上』(岩波版、12-23頁、24-29頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] ワイマールの街に着いたシャルロッテの親子: 若き日に無名であった天才ゲーテに想いを寄せられ、彼の『若きウェルテルの悩み』のロッテのモデルとされたシャルロッテ・プフは、彼と44年ぶりに会うという希望をひそかに抱いて娘を連れてワイマールの街に来訪する。この地では既に世界的に著名になっていたゲーテが宰相として活躍していた。</p>	同上
11月12日(火)	『ワイマールのロッテ 上』(岩波版、130-141頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] リーマーとシャルロッテの対話: 時代精神を体現する存在として、世界的名声を獲得したゲーテには、身近な人に対するある意味で冷淡とも言つべき態度が見られた。天才の開花を支える身近な人たちの自負とやるせなさが垣間見られる。</p>	同上
11月19日(火)	『ワイマールのロッテ 下』(岩波版、246-251頁、311-324頁) ゲーテの詩「昇天のあこがれ」	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] ゲーテとシャルロッテの再会: ついにゲーテとロッテは再会する。ゲーテはロッテとどのように距離を置くべきかに戸惑っている。やがて、彼らは腹を割って話を始め、別れ際についてゲーテはかつての燃えるような恋心の片鱗を覗かせる。</p>	同上
11月26日(火)	『みづうみ』(岩波版、7-26頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] ラインハルトとエリーザベトの幼少時代: 老人ラインハルトの回想: 老人が月明かりの差し込む自室で想いに耽る。想うは子供時代を共に過ごし、将来を約しながら結ばれなかった女性のことである。</p>	同上
12月3日(火)	『みづうみ』(岩波版、26-44頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] ラインハルトの大学生生活と故郷に残ったエリーザベト: ラインハルトは故郷を離れ大学町で勉学に励む。一時帰郷した彼は幼馴染のエリーザベトに会うが、彼女はどこか浮かぬ表情である。大学に戻る彼は彼女に二年の勉学を終えたら求婚すると暗にほめかし出発する。</p>	同上
12月10日(火)	『みづうみ』(岩波版、50-71頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] ラインハルトとエリーザベトの別れ: 二年の年月が流れ、勉学に励むラインハルトは、子供のころから愛していたエリーザベトが友人のエーリッヒと結婚したのだということを知る。ラインハルトは帰郷の後、エーリッヒ、エリーザベトと再会する。数日、彼は若夫婦の元に滞留し共に過ごす。幼馴染であるエリーザベトと往時を思い出し、やがてラインハルトは辞去する。それが彼らの別れとなる。</p>	同上
12月17日(火)	『三四郎』(岩波版、28-33、60-67頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] 熊本の高等学校を経て、帝大に学ぶために上京した三四郎は、東京での生活になじみつたあつたある日、大学の池の畔で美禰子に出会う。</p>	同上

日程	授業項目	授業内容・行動目標・学習方略(SBOs)(LS)・準備学習(予習)内容・コアカリキュラム・国家試験出題基準	授業担当者
12月24日(火)	『三四郎』(岩波版、88-99頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] 広田先生の引っ越しを手伝いに来た三四郎は美禰子と再会する。二人の何気ない会話や、しぐさの中には既に互いに対する好意が読み取れるのではないかと。</p>	同上
1月14日(火)	『三四郎』(岩波版、196-206頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] 三四郎と美禰子は展覧会に行くが、それは一種のデートである。美禰子は時折それとなく三四郎に意味深な言葉を発するが、三四郎は当意即妙にその女心に応じることはできない。するとそこへ偶然に二人の共通の知人である野々宮が来る。美禰子は三四郎と展覧会に来たことをひけらかす。</p>	同上
1月21日(火)	『三四郎』(岩波版、238-249頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] 三四郎は美禰子から借りた金を返しに彼女の元へ行く。彼女は知人の画家の絵のモデルとなっていて、そのアトリエに毎日通っている。三四郎はそのアトリエを訪ねる。彼女がそのとき身につけている服は、二人が初めて帝大の池の畔で出会ったときのままである。</p>	同上
1月28日(火)	『三四郎』(岩波版、280-293頁)	<p>[準備学習項目] 授業で扱う範囲を読んでくる。</p> <p>[授業内容] 三四郎は美禰子が結婚するのだと耳にする。そして借りていた金を彼女に返す。やがて、彼女の絵が完成し展覧会で飾られる。</p>	同上